

【別添 - 1】各地域の概要

(1) 知床連山地域

自然環境

植生状況は、山麓部から稜線部にかけて明確な垂直分布を示す。

- ・尾根筋：ハイマツが植生
- ・高山帯：多様な高山植生（ハイマツ・雪田群落・砂礫地植物群落）
- ・山麓部：針広混交林（トドマツ・ミズナラ）、ダケカンバ（広葉樹林）
- ・希少種等：シレットコスミレ、メアカンキンバイ
- ・山麓部登山道沿いの岩峰：高山帯植物（レリック）

利用状況

ア 登山道を利用した登山利用（以下「登山利用」という。）が主体。

岩尾別温泉登山口～羅臼岳登山（年間推定 6 千人から 1 万人、H16：8,900 人）、知床連山縦走（年間推定 5 百人から 1 千人、H16：840 人）及びカムイワッカ登山口～硫黄山登山（年間推定 5 百人から 1 千人、H16：580 人）の利用が多く、羅臼温泉登山口～羅臼岳登山（年間推定 4 百人程度、H16：380 人）の利用頻度は低い。

イ 山麓部河川での、釣り利用や沢登り利用が見られる。

ウ 山麓部森林へのガイド引率による入り込み、早春の知床峠から羅臼岳方面への登山については情報不足。

公園計画等の概要

ア 公園計画

歩道計画・・・硫黄山登山線、羅臼平・知円別岳線、羅臼岳登山線

イ 公園管理計画

主として登山利用に供する。

グリーンワーカー事業等により、関係機関と協力して点検、補修、植生の保護・復元を行う。

登山利用上の危険防止及び植生保護の為に必要な措置を行う。

野営地の限定と区域の明確化（羅臼平・三ツ峰・二つ池・銀冷水・硫黄山第一火口・弥三吉水・泊場）

保護・管理状況

ア 岩尾別温泉 - 羅臼平

標識設置・土壌積・水切り・ロープ張り（H4～旧特定重点事業）

イ 羅臼温泉 - 羅臼平

標識設置（H4～旧特定重点事業）

ウ 岩尾別温泉 - 縦走路 - 硫黄山登山口

登山者指導・ゴミ除去・トレイ場状況・登山道状況監視（H13～GW事業）

エ 野営地でのヒグマ対策用フードロッカー設置（H10～H14 環境省）

オ 野営地明確化（羅臼平・三ツ峰）と標識整備（H12・13 北海道森林管理局保護林緊急対策事業）

カ 二つ池野営地明確化と植生保護措置（H16 環境省）

キ 登山者の把握（入山カウンター（H16～）、入山簿の設置）

課題・問題点

ア 登山道の荒廃・複線化（大沢、三ツ峰、サシルイ岳、二つ池など）

- ・大沢等では、雪渓が夏まで残るため融雪に合わせて登山道が変化（複線化、植生に影響）
- ・融雪時の登山道水没やぬかるみによる登山者の植生地歩行（複線化、植生に影響）
- ・登山者踏み固めと融雪水による登山道のガリ、侵食

イ 植生の荒廃懸念（二つ池湿原植生、羅臼平メアカンキンバイなど）

- ・RDBIB類のメアカンキンバイ生育地を登山者が休憩地・野営地に利用（羅臼平）
- ・7月の3連休など登山者が多い日にテント数が収容力を越え、植生地に野営（二つ池）
- ・融雪時の登山道水没・ぬかるみによる登山者の植生地歩行（複線化、植生に影響）

ウ し尿処理

- ・使用済み紙、臭い、水質の問題、トイレ道（踏み分け道）の増加。

エ 利用環境

- ・岩尾別温泉から羅臼岳登山では、7・8月を中心に長蛇の列が出来る事もある。
- ・7月の3連休などは縦走者も多く、野営地（二つ池など）も野営者であふれている。

オ 登山者の安全対策

- ・ヒグマ対策及び必要最低限の装備（地形図・コンパス・防寒具他）の携帯
- ・迷いやすい場所への標識・ロープ設置等

カ 町道岩尾別温泉への登山車両の駐車

- ・登山利用最盛期は、路上駐車がが多く、路線バスの通行を妨げる事もある。

キ 管理者体制（巡視体制）

- ・巡視強化、巡視員の確保、関係機関との連携。

（2）ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ・羅臼湖・知床横断道路沿線地域

自然環境

原生的な森林、高山植生（ハイマツ）、湿性植生（羅臼湖）、旧開拓地での森林再生地、湖沼景観、断崖景観、山岳景観、エゾシカなどの野生動物観察、サケ・マスの遡上など多様な自然環境を保つ地域。

利用状況

ア 一般観光利用（知床五湖：年間約50万人、カムイワッカ、幌別）

- ・夏期は特に利用者が多く、知床五湖、カムイワッカでは車両の渋滞や利用の混雑が生じる。

イ ガイドによる引率利用（知床五湖、ホロベツ、夜の自然観察等）

ウ スキー等の冬季利用（ホロベツ、岩尾別台地上、流氷の海岸部、知床峠、羅臼湖）

- ・岩尾別から知床五湖・岩尾別温泉へのスキー利用などがある程度見られる。
- ・ホロベツ～知床峠では、スキー利用が見られるが利用者は多くない。
- ・羅臼湖では、春先にスキー利用が見られる。(利用者数は不詳)

エ 幌別川・岩尾別川での河口部、特に幌別川では収奪的な釣りが行われている。

オ 横断道路沿線

- ・自動車による利用。知床峠や連山、北方四島の視点場で風景鑑賞。
- ・ポンホロ沼(自然観察教育林)では、自然観察利用が見られる他、ガイド引率あり。

カ 羅臼湖歩道

山岳景観・湿原景観の探勝・自然観察。年間推定3千人程度が利用(H16カウンター調査:5,501人、入林簿:3,205人)。ガイド引率あり。

キ 羅臼温泉集団施設地区

ビジターセンター(年間利用者数 約8,000人) 野営場、遊歩道等が整備されている。

公園計画等の概要

ア 公園計画<利用計画>

ホロベツ(園地・駐車場・博物展示施設・野営場)

知床峠及び知床五湖方面への入り口に当たり、両地域への入り込み調整機能を有する利用拠点として各種施設の計画。

知床五湖(園地・歩道・指定湖沼)

五湖入口における利用者の休憩、案内、利便のための施設と歩道の計画。

カムイワッカ(園地:硫黄山登山口付近に小規模な展望休憩施設の計画)

岩尾別温泉(宿舎:探勝及び登山利用者のための簡易宿泊施設の計画)

岩尾別(宿舎:探勝利用者のための簡易宿泊施設の計画)

車道(ホロベツ・カムイワッカ線、岩尾別線、ウトロ・羅臼線)

羅臼温泉集団施設地区

知床峠(園地:短時間の展望利用に供する地区とし、施設は必要最小限にとどめる。)

歩道(羅臼湖線:自然探勝路として整備。なお、施設整備に当たっては、湿原保護に配慮が必要)

イ 公園計画<利用規制計画>

ホロベツ～羅臼温泉間の車道

ハイマツ帯を含む原生林内を通過し、道路利用に伴う自然環境への影響を最小限に止める必要がある。規制方法は、通過型利用を促進するものとし、道路の駐車規制の継続について関係機関と調整が必要。

ホロベツ・カムイワッカ線沿線、知床五湖

知床五湖は原生的景観を有する地域であり、利用最盛期における車両の入り込みを制限について検討する必要がある。規制方法は、自動車利用適正化要綱に基づき関係機関との調整が必要。

ウ 公園管理計画

自然環境に応じた適正な利用に供する。(ホロベツ、知床五湖、カムイワッカ)

宿 舎

岩尾別温泉は、現状の施設規模にとどめる。岩尾別は今後の利用動向により検討。

園 地

ホロベツは、利用拠点としての広場と案内・解説版の充実。

知床五湖は、駐車場・休憩施設は現状の規模にとどめる。

カムイワッカは、硫黄山登山口付近の展望施設にとどめる。

知床峠は、短時間の展望利用に供する為、施設は現状維持とし、案内板、解説版の充実を図る。

博物展示施設

ホロベツ地区は、自然探勝と自然保護教育活動拠点として充実を図る。

駐車場

ホロベツ地区の駐車場は、マイカー規制の要となる施設であり規模等は、自動車利用適正化対策の中で検討していく。

道路（車道）

ホロベツ・カムイワッカ線の五湖以奥の改良は、急峻な地形の為自然環境に与える影響が大きく、慎重に取り扱う。

ウトロ・羅臼線は、主として自動車による通過利用とする。道路付帯駐車場の新設及び既存の拡張は原則として認めない。供用期間延長のための防雪施設等は、自然環境及び景観への影響を考慮し慎重に検討する。

カムイワッカ湯の滝

利用計画では把握していない。基本的には自己責任の利用であるが、その対策等について関係機関と検討を行う。

羅臼温泉地区

公園利用の拠点地域として、自然環境に応じた適正な利用に供する。

羅臼湖線歩道

植生保護のため、歩行区域の限定等必要な措置を講ずる。無制限な利用を防ぐため、入口標識の整備は行わない。

エ 半島先端部地区利用適正化基本計画

拠点施設：利用の適正化推進の拠点施設として、利用者への情報提供や事前レクチャーのための機能の整備充実を図る。

（羅臼温泉地区、ホロベツ地区、ウトロ地区）

保護・管理状況

ア ホロベツ地区

自然センター（斜里町）及び歩道・駐車場整備（北海道）など利用拠点施設の充実。

イ 知床五湖

休憩所・展望台（斜里町）及び歩道・駐車場・トイレ整備（北海道）など利用拠点施設の充実。

ウ 知床五湖以奥

マイカー規制の実施（H11年以降、夏期23日間を規制、H17年は70日間）

エ ヒグマ対策

知床財団、斜里町、羅臼町、環境省により、ヒグマ出没地域（ホロベツ・カムイワッカ・岩尾別・その他地区）一円において誘引物除去、利用者への情報提供と啓発。

オ 羅臼湖

植生保護のための木道整備（北海道）。登山者の把握（入山カウンター設置や入林届ボックス設置）。巡視。

カ 知床峠

清掃活動による清潔の維持、移動販売車の規制など。

課題・問題点

ア 夏期利用の集中

秘湯・秘境イメージの消失（カムイワッカ）、利用快適性の低下、車両渋滞（五湖・カムイワッカ）、集中・過剰利用対策地（代替地等）の欠如。

イ より深い自然への理解を得られる質の高い自然体験機会の提供

山岳や断崖の景観、野生動物との遭遇、原生的な森林、旧開拓地の森林再生など当該地区は、様々な魅力が凝縮された地区である。利用者がより深い自然への理解やより質の高い自然体験提供の推進。

ウ カムイワッカ地区（安全利用、立売り、トイレ対策）

エ 羅臼湖

歩道利用者の増加。道の拡幅（但し、今のところ湿性植生への影響はない）、入込み増加に伴う帰化植物の侵入懸念。歩道入口付近での路傍駐車。

オ 動物への餌やり問題（全域）

カ 希少鳥類対策

冬期利用による希少鳥類生息（繁殖）への影響懸念

キ 管理者の課題

ヒグマ対策体制の充実、ヒグマ生息地における利用システムの確立、これらにかかる管理コストの確保

（3）知西別岳及びその周辺地域

自然環境

ダケカンバ林とハイマツ群落が主体

利用状況

春先のスキー利用（利用者数は不詳）

現在の公園計画等の概要

ア 公園計画

利用計画はなし。（保護計画は特別保護地区及び第1種特別地域）

イ 公園管理計画

一般の直接利用には供さない。

保護・管理状況

利用施設・ルート等が全く無く、利用者数も極めて少ない。

課題・問題点

利用実態の把握を進める。

(4) ルサ～相泊間の道路沿線地域

自然環境

- ・ルサ川の中・上流域はハンノキ・ダケカンバ・トドマツ等からなる針広混交林で、希少な鳥類が生息するなど原生的な自然環境が保全されている。
- ・道路沿線の山側は急傾斜地となっており、夏期には落石・岩盤崩落が、冬期には雪崩の発生が見られる。また、法面はフキ・イタドリ・ササが群生している他、フランスギクやアメリカオニアザミ等の外来草本の侵入も見られる。
- ・海側は路肩から石礫浜・岩礁地で平坦地が極めて少ない地形が続いている。途中の瀬石、相泊の海岸に温泉が湧出しており、車道終点は相泊漁港が整備されている。

利用状況

- ア 公園計画車道ルサ相泊線は、公園利用者の公園（観光）道路としての利用されている一方で沿線に点在する昆布番屋等の地域の生活道路としての役割を担い、比較的利用の多い道路である。
- イ 相泊は、知床沼・知床岬方面縦走の基点としても利用されている。
- ウ 一部の海岸は、羅臼～ウトロ間のシーカヤック発着場として利用されている。
- エ 昆布漁期は、昆布番屋周辺の車道に路肩駐車が目立つ。
- オ テレビドラマ「北の国から」の純の番屋、相泊温泉、瀬石温泉の露天風呂への人気が高い。
- カ ルサ川、オショロッコ川、相泊川河口部では8～11月サケ・マス釣り利用がある。
- キ ルサ川中・下流域での溪流釣り利用が見られる。

公園計画等の概要

- ア 公園計画
 - ・ルサ相泊線車道
東海岸線を探勝する路線として、整備に当たっては沿線の風致維持に配慮する。
 - ・ルサ野営場（未整備）
- イ 公園管理計画
 - 相泊、北浜地区
公園の利用地域として、それぞれの自然環境に応じた適正な利用に供する。番屋の新設は、極力抑制する。
 - ルサ相泊線車道
交通安全・危険防止等のための改良は、風致景観に支障のないよう調整を図る。
 - ルサ野営場
事業執行については、今後の利用動向により検討する。
- ウ 半島先端部地区利用適正化基本計画
 - 拠点補完機能
「利用者」への情報提供や的確な「利用ルール」運用のため、拠点施設を補完す

る機能として、必要に応じ「フィールドハウス（指導・啓発機能を持つ「関所（ゲート）的施設）」や「現場監督員詰所」等の設置を計画する。

保護・管理状況

ア 岬方面

岬方面立入り者に対しては、注意喚起標識がある他、入林届ボックスが設置・管理されている。

イ 道路は管理者（釧路土木現業所）により、維持管理が行われている。

課題・問題点

ア 半島先端部利用者：立入り利用者に対する指導・啓発手法の確立。

イ 外来植物の進入：道路法面や海岸部における外来植物の進入に係わる対策。

ウ 野営地対策：野営指定地外での野営（ルサ、相泊港）。

エ ヒグマ対策：春先の民家付近へのヒグマ出没。

オ エゾシカの増加：交通事故の発生及び植生の変化。